



インフルエンザ・新型コロナウイルスとともに過ごす季節がやってきました。
 二つの感染症（インフルエンザ・コロナウイルス）の感染症対策はすべて同じです。

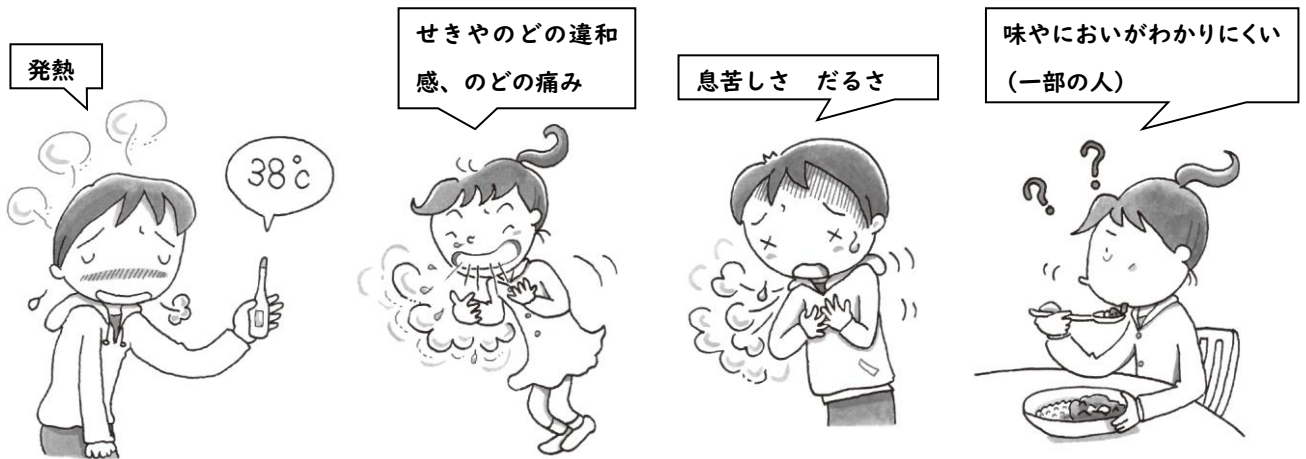
手洗い

マスク

密をさける

換気

★★ 新型コロナウイルスの主な初期症状 ★★



★★ インフルエンザと風邪の違い ★★

筋肉痛・関節痛、強い寒気・だるさが特徴的です

風邪 (感冒)		インフルエンザ	
飛まつ感染	経路	空気感染、飛まつ感染	
37~38°C	発熱	37~40°C	
ゆるやか	進行	急激	
くしゃみ、鼻づまり、せき、のどの痛みなど、局所的な症状がほとんど	症状	筋肉痛、倦怠感など全身症状をともなう。熱性けいれん、脳症、肺炎、気管支炎など、合併症がある	
長くて1週間	期間	1~2週間	

長野県のコロナウイルスの感染警戒レベルは依然高い状態が続いています。緊張感が少し薄くなってきている状況もあります。ワクチン接種をした人も、油断はせずに引き続き、感染症対策をお願いします。学校は、ウイルスが持ち込まれるとクラスターとなりやすい場所です。ご家庭では朝の健康観察を含め、**前日から、調子が悪いようでしたら、翌朝は、熱を計ったり朝食の食べ具合などを見たりして、一日を元気で学校で過ごせるかの判断をしてから送り出してください。**

お母さん（お父さん）のその一言で…

先日の新聞にこんな記事が掲載されていました。 R4.10.27 信濃毎日新聞より

子ども叱る時には励まして 成人後の自立心などに好影響

子どもを叱る際「次は頑張ろうね」と励ました方が、原因を追及したり罰を科したりするよりも成人後の自立心や計画実行能力に良い影響を与えるとの研究結果を神戸大と同志社大のチームが26日、発表した。

チームによると、2021年3月、インターネット上で全国の20歳から70歳未満の男女を対象にアンケートを実施。約1300人の回答を分析した。

子どもの頃の叱られ方について「次は頑張ろうね」「どうしてできないの」「罰を与えられた」の3グループに分類。進学先や就職先をどの程度自立的に決めたかや、計画を立ててやり通す力、法令順守精神などを四つの指標とし、1300人の回答を数値化して比較した。

神戸大・同志社大チーム研究

褒め方・叱り方が子どもの将来に与える影響

褒め方 **良い影響** 叱り方

- 褒め方
 - 「頑張ったね」
 - 「偉いね」
 - 褒美をあげる
- 叱り方
 - 「次は頑張ろうね」
 - 「どうしてできないの」
 - 罰を科す

叱られた際「次は頑張ろうね」と励まされたグループは全ての指標で最高となり、「どうしてできないの」「罰を科された」の順に低下した。子どもが親の目を気にして親に従属しやすくなった可能性があるという。

褒め方については「頑張ったね」と努力を評価したのが最高で、「偉いね」「褒美を与えた」の順に低下した。チームの西村和雄神戸大特命教授は「いろいろな叱り方のメリットやデメリットを意識することが重要だ」としている。

SOS

保健室にしょんぼりして入ってくる中2男子生徒がいました。

「どうしたの?」と聞いてもなかなか話を切り出しません。切なくなるようなことがあったのだらうと思いました。

そのうちぼつりぼつりと話し始めました。親から勉強のことを言われたようでした。「**なんでできないの(勉強)**」「**もっと頑張ってよ**」「**こんな状態なら、塾行っている意味がない**」「**これじゃあ、高校行かれないよ**」子どもは一言も抵抗できません。口答えしたところで大人(親)には勝てないと思っています。保健室に泣いてやってくる生徒は、その行為がSOSとして出せています。しかし、誰にも言えずに一人で苦しみ、自分の中にどんどん思いをため込んで身動きが取れなくなってしまう子どももいます。子どもたちにはSOSの出せる人になって欲しいと思っています。『何かをもっと頑張って欲しいとき』どんな声かけがその子をその気にさせるのでしょうか。

○その子の可能性を信じた声かけ

○良いところをほめて、良いところをもっと伸ばしていく声かけ

(すると苦手なことにも挑戦しようとする気持ちが芽生えてきます。その時までぐっと待ちます)

○その子の以前の姿と今の姿の成長を認める声かけをします

(兄弟や他人、一般的なこととの比較は×)

そして、1番は、安心して過ごせるように家庭環境を整えることです(親の役目)

親も一緒に規則正しく生活をする、三度の食事、入浴、メリハリのある休日、子どもが出来ないことを親はやってあげることです。子どもがやることに手や口を出さなくても、子どもは親の背中をみて成長していきます。言葉遣いや話し方、日々の行動、物事に向かう姿勢…。いかがでしょうか…。

少し、厳しいことを書いてしまいました。子どもたちの切ない姿、可能性の芽を摘む声かけが聞こえてくるのは辛いものです。お子さんの健康を一番に考えていきましょう。 保健室 古村

